

小松電機産業

新製品「happygate monban」を世界展開、初の海外拠点・韓国「小松コリア」からアルミ部材輸入、コントローラ内蔵のコンパクト化実現



高速シートシャッターのトップブランド『門番』シリーズで業界をリードす

る小松電機産業(小松昭夫社長)は、エアカーテン・エアシャワーなど様々な機器への組み込みができる新型門番「happy gate monban (ハッピーゲート門番)」を開発し、国内外向けに販売を開始した。

「ハッピーゲート門番」は、『門番』の特長である高速開閉・省エネ・高気密・安全性と、エアカーテン・エアシャワーなど様々な機器へ組み込めるコンパクト化を同時に実現した『門番』シリーズの最新鋭モデル。

「ハッピーゲート門番」では、アルミ製のフレームと巻き取りドラムを採用し軽量化した。その部材は、今年5月に開設した同社100%出資の現地法人「小松コリア」(本社・ソウル市)から輸入した。

「小松コリア」はソウル市近郊に工場を開設。韓国市場向けにハッピーゲート門番を販売。海外販売も検討している。

小松社長の掲げる世界多拠点生産体制の構築を骨子とする

「ガレージファクトリー構想」がいよいよ始動、「ハッピーゲート門番」を主力商品にした世界展開が始まった。

コントローラを内蔵し省スペース・省配線化実現、各種の運動機器への組み込みが可能

「ハッピーゲート門番」シリーズは、①巻き取りボックス内蔵の「G012(屋内)」と、②サイドフレーム内蔵のコントローラ内蔵の「G104/G109(屋内) / G209(下端ウェット増)」、③コントローラ別置き「G052」の全5機種。

巻き取りボックス内蔵タイプである「G012(屋内)」は、従来に比べて約40%コンパクト化した外観。工場・事務所の出入口やマインドアとしての使用も可能。

「G012」は、起動センサーをボックス内に埋め込むことでホコリ溜りをなくした清潔環境維持設計。またコントローラ設置スペース不要の省スペース・省配線化を実現。

一方、サイドフレーム内蔵タイプ「G104 / G109(屋内) / G209(下端ウェット増)」は、アルミ製サイドフレーム内にコントローラをきっちりと内蔵し、省スペース・省配線化を実現。

「happy gate monban」シリーズ



コンパクト設計



起動センサー内蔵



巻き取りボックス内蔵コントローラ内蔵

フレーム内のフラットな操作パネルは、開閉操作、上下限停止位置設定、機能設定、エラー表示、運転切り替え、運転モードロックなど、様々な設定が容易におこなえる。操作パネルの取付位置も自由に設定でき、

メンテナンス性にもすぐれている。

さらに、オーダー対応で、フレーム内蔵LEDシグナル表示器(アラーム音声ガイド付き)も近日発売する。赤・緑LED、音声・アラームで警告表示、多言語切り替え12カ国語・音声設定ガイドなどを搭載。

各機種に共通の特長は、業界最速の上昇速度3.0m/s(G109最高速)の高速開閉により、虫やホコリの侵入、室内の温度・湿度変化を抑えること。ECOモード+高速開閉で消費電力を60%削減できる省エネ効果。防虫・防塵効果の高い高気密のエアタイト構造や、ホコリの溜らないフラットスイッチ・センサーを採用した清潔さ。安全・安心な3段階の反転制御(高速3.0m/s起動センサーまたはスイッチ操作による通常運転。中速1.5m/s光電管センサー検知、下限位置以外からの上昇。低速0.5m/s動作中に接触または負荷検知)。

そのほかにも、停電時に安心なバックアップ電源仕様(近日発売)、女性でも簡単にはずせる軽量構造の非常脱出機構、修理費を削減する容易なフレーム交換、自動復帰機構などを備えている。

すでに昨年6月新発売した業界初の「門番Gシリーズ・クリーンルーム仕様」につき、「ハッピーゲート門番」では、エアカーテン一体型門番、エアシャワー一体型門番を開発するなど、工場内機器との連動性を強めていることも大きなセール

スポイントのひとつ。

高度なクリーン環境を要求される最新生産システムでは、小松電機産業のもつ高度な機器制御技術と、一元的に管理できる販売管理システムの採用によって、高品質で信頼性の高い製品を送り出すことが可能になる。また清潔さを求める食品関連分野、さらにはコンパクト化によって一般出入口やドアにも新たな需要が見込まれ、その汎用性を一段と高めたといえる。

門番初の海外拠点 韓国「小松コリア」設立、年間製造500台体制

小松電機産業は、5月韓国・ソウル市に100%出資の現地法人「KOMATSU KOREA CO. LTD」(小松コリア)と、韓国・工場を設立し、「門番」ブランドの海外展開を加速させた。

小松電機産業は、すでに1990年に韓国の現地パートナーと提携、「門番」の販売を開始、2010年5月にはソウル支社を開設していた。これに先立つ2006年12月に小松社長は、最終ユーザーに近い場所での生産、アフターサービスの充実、200㎡程度の用地での世界多拠点生産などを骨子とする「ガレージファクトリー構想」を発表している。今回の韓国国内の拠点づくりは、「ハッピーゲート門番」の第1号と位置付けられている。

「小松コリア」は、資本金3億ウォン、代表理事に小松社長。部材の調達や「門番」の海外展



「ハッピーゲート門番」の部材輸出入初荷役風景 小松電機産業のアジア地域向け海外展開の記念すべき第一歩

開の拠点となる。生産工場は、2階建て・総床面積約300㎡。高速シートシャッターの製造・施工・メンテナンス業務を担う。今年度生産目標500台、のうち約300台をアジア地域向けの輸出にあてる計画。

新型「ハッピーゲート門番」のアルミ製フレーム500本と巻き取りドラム220本輸入

また、部材調達として、小松コリアの協力企業から調達したアルミニウム製フレーム500本と巻き取りドラム220本(40フィートコンテナ1台分)が境港市の境港に6月初輸入された。この輸入部材は、スチール製からアルミ製フレームに切り替える「ハッピーゲート門番」に使用されるもの。新型「門番」は、国内と韓国工場2拠点で年間5000台の製造を予定している。

小松社長は、「小松コリア」の設立を機に「ガレージファクトリー構想」を本格化するために、近くタイ、シンガポール、マレーシア、中国への進出を念頭においた調査を開始すると述べている。